保育総合研究会
臨時
News

VOL.6　2020. 7. 10
発行人　保育総合研究会　会長　椛沢　幸苗
発行元　事務局長　社会福祉法人　東明会
飯沼こども園　理事長　東ヶ崎静仁
〒311-3153 茨城県東茨城郡茨城町上飯沼 1276-1
029-292-6868　Fax 029-292-3831
E-mail　iinuma-n@ans.co.jp

全国会員数　97 名

・7 プロポジションの説明会の日程決まる

【zoom での簡易な研修会方式で説明しますよ・・?】

◆**7 プロポジション**全員説明会　(保総研の誰が見てもかまいません)　説明:坂﨑

日時　7/29（水）第 1 章-3 章 9:30-11:00　　第 4 章-5 章 13:00-14:30　第 6 章-7 章 15:30-17:00

※あらかじめ会員の皆様には東ヶ崎事務局長より、当日ミーティングに申し込む事務局菊地さんの zoomURL 等と坂﨑資料が添付ファイルで届くようになっています。あとは当日委員の人は全部もしくは、自分の担当するところを見てくだされば幸いです。各章の内容については、臨時 NewsVOL.5 をご参照ください。

◆**委員会・グループ会議**　**進行:坂﨑**　　**各委員を再掲しますのでご確認ください**

日時　第 1 委員会　8/5（水）16:30-18:00　グループでも話し合います。

第 2 委員会　8/3（月）16:30-18:00　同上

第 3 委員会　8/4（火）16:30-18:00　同上

7 プロポジション委員名簿

第１委員会　委員長　坂﨑　力紀（青森）　8/5（水）16:30-18:00

副委員長　松永　和孝（熊本）　今野　真洋（秋田）　勇　まり子（三重）

事務局長　打田　公平（岩手）

事務局次長　倉内　真理（青森）

アドバイザー　〇平山　猛（熊本）　古川　豊（熊本）　東口　房正（大阪）　原本　宏志（青森）

打田　修子（岩手）

第２委員会　委員長　高月　美穂（大分）　8/3（月）16:30-18:00

副委員長　吉本　大樹（熊本）　本田小百合（熊本）　高月　善徳（大分）

事務局長　菊地　渉（茨城）

事務局次長　加藤　要貴（長野）

アドバイザー　〇田中　啓昭（大阪）　岩橋　道世（大分）　隅崎　哲也（鹿児島）　百瀬　浜路（埼玉）

第３委員会　委員長　伊東　俊樹（新潟）　8/4（火）16:30-18:00

副委員長　青木恵里佳（東京）　菊池　晃（岩手）　東ヶ﨑拓樹（茨城）

事務局長　椛沢伊知郎（青森）

事務局次長　田口　侑平（神奈川）　渡辺　謙（茨城）

アドバイザー　〇永田　久史（大阪）　矢野　理絵（熊本）　椛沢さやか（青森）　塩坂　北斗（東京）

第２回　三役・事務局 zoom 会議　in　保総研➡報告

日時　令和２年７月１日(水)　13:00-14:00

参加者　椛沢会長　伊東副会長　田和同　坂﨑同　東ヶ崎事務局長　菊地事務局次長　永田事務局員(7 名)

議案 1.コロナウィルスに関するアンケートの集計について(東ヶ崎説明)　⇒本日の臨時 News６号で掲載

2.※年齢別サポートブックドキュメンテーション改訂版について(椛沢説明)➡次回の臨時 News7 号に掲載予定

3.7 プロポジションの進め方について(坂﨑説明)

4.その他　20 周年記念誌を作成したい　　11 月頃には感染地区を避けて定例会等を開催したい

議案２について　年齢別サポートブック　ドキュメンテーション改訂版発行について

※新規議案。2013.14 年に発刊した「保育サポートブック０・１歳児から５歳児クラスの教育」(5 冊)については世界文化ワンダークリエイト社より保総研に是非出版して欲しいとのこと(一部改定)の依頼がありましたので、これについて検討いしました。椛沢会長からの提案により議案となり了解された

・現在の所　・出版したい希望月　来年 2021 年２－３月　　よって最終原稿は　本年 2020 年 10 月程度

・出来ればなんとかして５冊刷新しくしたいとのこと

・前回が平成 20 年保育所保育指針に基づいたものだが、今回は各要領・指針に基づいた赤いサポートブックにそったものにすべきとの提案

坂﨑副会長が 7/6 に世界文化ワンダークリエイト社と打ち合わせをして、詳細を次号でお知らせします

次回の第３回会議は令和２年８月４日(火)　13:00-

☆2020 年 令和 2 年度定例会等事業予定

2020. 9/1-2　第６７回定例会　名古屋市　東海学園大学　中止

2020. 8/4　**第３回三役・事務局 zoom 会議**　議案　サポートブック年齢別・７プロポジションの進行状況

今回の情報提供　P1-2　zoom**7 プロポジション研修&会議**

P3　**第２回三役・事務局 zoom 会議**　**年齢別サポートブックドキュメンテーション改訂版発行決まる**

P5　・『保総研の歴史　№6』今さらながら　どうして　大阪が生んだ天才東口のお話

P6-10　・**コロナウィルスに関するアンケートの集計について**

P11　子ども子育て会議から➡各都道府県及び自治体の 91%は地域区分変更必要なし

P12　編集誤記

◆　**次回 7/25 に広報する予定です。内容は「年齢別サポートブックドキュメンテーション改訂版発行等について」です。又、**

『保総研の歴史　№6』今さらながら　どうして　大阪が生んだ天才東口のお話し

世の中にはどうにもならないほどの天才と呼ばれる人がいる。私にも音楽界以外の知りあいで、ただ一人だけいる。

名前は東口房正と言う。大阪が生んだ稀代の人物だ。大阪には、私の上の代で言うと高岡・永野・菊池・桑田・三角兄ら大先輩ら、もちろん現全保副会長の当会の森田、同世代だと西沢の祥ちゃんや坂本大先生・三角弟に少し下だが市橋もおる。そして忘れてならないのはとてもとても優秀な我らの永田・田中のお二人もおる。他の分野でもそうなのかもしれないが、大阪には次代を作っている人が多くいる。それでも東口は別格中の別格だ。

Japan
Association of　連合(すること)
MultidisciplinaryResearch for
多くの学問領域にわたる　研究
Early Childhood Care and
Education

さて逸話を一つだけ書いておきたい。東口と言えばミッキーマウスだ。ミッキーのことを一度だけ、平成７年だと思うが、岩手県の小岩井農場でお酒を飲んだ後、真夜中に質問した。「何故ミッキーかと？」その時東口はこう答えた。「ミッキーがね、毎夜、窓辺に来て僕に話しかけるんだよ。」と。そしてもうその後の記憶は無いが、間違いなく私は気が動転した。たぶん人には聞いてはだめなものがあるのだろうと。私だって小学校１年生くらいまで空を飛べていたなんて口が裂けても言えないもの。

さてまじめな話を少し。東口のその後の活躍は皆の知るところだが、あまりの天才さに残念なことだが、なかなか話しているのを他人が理解してもらえない部分もある。大阪人の割には決して多弁ではない。でも言っとくが、彼が話したことはそのまま文章なってしまうほどの才だということを皆は知ってるだろうか。だからかも知れないが、彼の書いた文章は超がつくほどの逸品だ。思うことがある。実際にはその時を生きることで人間は精いっぱいだ。もちろん彼の家で幼稚園や保育園をしていたし、公立の保育所のことも良く知っている。でもそれだけではない。あんなに次代を冷静に読んでいるところを見るともしかするとタイムトラベラーの未来人か、はたまた冥王星から来た宇宙人かも知れない。本当はミッキーを好きだというのは、そのことを知られないためのカモフラージュなのかも知れない。都市伝説のようになったが、信じるか信じないかはあなた次第だ。

保育総合研究会　2020 春　緊急アンケート　J MEE

【　コロナウィルスに関するアンケートの集計について　】から考える

【新型コロナウィルスにおける保育施設アンケート結果について】

未曾有の新型コロナウィルス感染拡大に伴い、教育・保育施設並びに子どもの様子を把握するために会員各位にアンケートをお願いしました。期間は令和２年６月８日～６月１７日（10 日間）、当会会員総数９３施設中、回答数は（都市部）４施設、（地方）２５施設、合計 29 施設から回答を頂きました。ご多忙の中ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

回答施設の施設種類は、都市部［認定こども園２施設　保育所２施設］、地方［認定こども園１８施設　保育所７施設］となっています。尚、国は都道府県に対して緊急事態宣言を発令、解除日の違いで東京・神奈川・埼玉・北海道・大阪・兵庫・京都を「都市部」、その他３９県を「地方」として集計しました。

＜施設の状況＞

国は緊急事態宣言を全都道府県に対して発令、都道府県は感染状況によって要請の積極性の違いがありました。施設対応判断については、市区町村に委ねられ、市区町村でも感染状況によって一斉又は一部地域ごとに違ってました。例えば感染拡大状況によって積極的な対応の「施設休園又は登園自粛」と「通常保育」違いがあった。又、宣言を受けても感染拡大しなかった都道府県・市区町村では積極的な休園・登園自粛の要請はせず、感染防止を呼び掛けながら通常保育として受け入れたようです。

医療従事者等特定業種従事者の園児受入れについて、「受け入れている」回答は４施設だったが、「受け入れない」とする回答はゼロだった。通常入所利用としての認識での対応だったように思われます。

＜子どもの状況＞

都市部・地方共に長期にわたる欠席は、①運動不足　②生活のリズムが崩れるという現象

＜保護者の状況＞

都市部で①毎日子どもと一緒でストレス　②３食の食事が大変　③感染が恐怖・終息が見えないの順

地方では①感染が恐怖　②毎日子どもと一緒でストレス　③３食の食事が大変　④終息が見えないの順

＜職員状況＞

職員の勤務は子どもの利用数が減少した時は分散保育で、職員も分散勤務、自宅待機とした。その際の給与等の処遇についてはフルタイム・短時間勤務者共に有給休暇・特別休暇・出勤とみなし給与の保障をした。

＜考察＞

終息が見えない中で施設は今後の保育・行事の見直しについて困惑しています。そして、緊急事態における予防、対応等が今後の検討課題になってきます。

長期欠席した児童は運動不足、生活リズムが崩れるなどの症状がみられるが、外遊びなどの体験・経験不足が子どもの発達に影響が出るという声もあります。こうした子どもたちの保育フローも検討してはいかがだろうか。

両親・保護者共働きが増加、働き方改革も加わる中で、保育所制度・幼稚園制度の併合による新制度対応には混乱があります。就学前教育・保育、子育て支援する子ども・子育て支援制度の本来の機能もてる制度を望みます。

※アンケート結果の概要は上記のとおりですが、詳細については集計表を添付しましたので以下のリン クからご覧ください。

http://hosouken.dip.jp/hskblog/wp-content/uploads/covid_questionnaire.pdf

2020.6/26 子ども子育て会議から➡子どものための教育・保育給付における地域区分の在り方について

その他の地域の方々へ　少し考えて話し合いましょう。

1　調査目的　　「子ども・子育て支援新制度施行後５年の見直しに係る対応方針について（令和元年 12 月 10 日子ども・子育て会議）」において、「地域区分の在り方については、経過措置の将来的な取り扱いも含め、引き続き検討すべき」とされたことを踏まえて調査

2　調査対象　　全ての都道府県及び市町村（特別区を含む）

3　調査時期　　令和２年３月～４月

回答　６割超の都道府県は、地域区分の在り方について「特に見直しの必要はない」と回答。

見直しの検討が必要とする回答には、周囲の自治体の地域区分を考慮した補正ルールの追加を求める内容が多い

	都道府県数
①特に見直しの必要はない	３０（６３．８％）
②見直し（地域手当制度に準拠しつつ補正措置を追加）の検討が必要	１３（２７．７％）
③見直し（地域手当制度と異なる新たな仕組み）の検討が必要	３（　６．４％）
④その他（②③両方に当てはまると回答）	１（　２．１％）

実際に②は必要なしと同様の回答なので①との合計は　91.5%なのである。坂﨑はショックで開いた口が塞がらなかった。

編集誤記

下記については７月中に坂﨑が塩坂と打ち合わせをします。その後に編集委員の皆様にお知らせします。

・「保総研２０周年記念誌編集部」　担当責任者/椛沢　　部長/遠藤 浩平

副部長/坂﨑 田和　永田　　部員/塩坂 百瀬　土山　福沢 只野 筒井　　事務局/東ヶ崎　菊地

・7/1 三役会で、いずれかの時期に定例会又は役員会等を感染の少ない地で開催できないかと話がありました。次回の役員会で場所や内容を検討することとなりました。楽しみにしておいてください。是非とも顔を見て話しをするようにしましょう。

・株式会社世界文化ワンダークリエイトによるサポートブック研修あります。坂﨑講師です。添付ファイルで送るようにします。教材チーム　塩坂北斗　mailto:h-shiosaka@sekaibunka.co.jp

TEL:070-1257-6259【FaceTime/GoogleDuo】〒102-8187　東京都千代田区九段北 4-2-29

この広報に対する内容については下記に電話等でご連絡を頂けると有難いです。

担　当：〒039-4222　青森県下北郡東通村砂子又大字沢内 9-35
保育総合研究会　副会長　坂﨑隆浩　携帯：090-6252-3699
メール/kodomoen.sakazaki@angel.ocn.ne.jp
（こども園ひがしどおり　FAX:　0175-31-0203）